



ソニー生命とプルデンシャル生命

1997年度、1998年度と生命保険業界全体の個人保険保有契約高が純減する中で¹、2年連続で保有契約純増加高の1位、2位を占めたのは、ソニー生命とプルデンシャル生命という2つのカタカナ名の生命保険会社であった。

両社の業績

ソニー生命は1999年8月に創業20周年を迎えたばかりの生命保険会社である。したがって戦前から営業している伝統的な国内生保に比べて、相対的に規模も小さい²。しかし長い伝統を持つ国内生保が不振を極める中であって、ソニー生命は大きく業績を伸ばしている。同社が獲得した1998年度の個人保険の保有契約高は16兆5,043億円と前期比22%の増加、新規契約高は16%増の4兆1,932億円、保険料等収入は23%増の3,423億円、保有純増加高は2年連続業界トップの2兆9,986億円と、いずれの指標をみても群を抜いている。

一方、プルデンシャル生命も1988年4月の創業以来、一貫して高い成長を続けており、1998年度の個人保険の保有純増加高は、1兆7,092億円とソニー生命に次いで業界第2位³である。同社の営業職員であるライフ・プランナー（以下LP）・約1,500名（1998年度末現在）の営業体制からみて、極めて高い生産性をあげているといえよう⁴。

¹ 生命保険業界全体の動向については付属資料1～4参照。

² 生命保険会社の概要については付属資料5参照。

³ 東邦生命から営業権を譲渡されて、1998年度より営業を開始したGEエジソン生命を除く。

⁴ 両社の業績については付属資料6～8参照。